

バリアフリー ムーブメント

Vol.43

“いざ” じゃないとき知る知識！
“いざ” というとき引き出す知識！

バリアフリーな社会を生きるため、
必要なことを先取りしよう！

「今回のテーマ」
ガイドを利用して
博物館をもっと楽
しく！

既存の製品をより多くの人が使いやすいようにしてくれるモノ、今まで使えなかったものを使いやすくなるためのモノ等、これらからどんどん増えてくるバリアフリー化された製品や情報を紹介しているこのコーナー。
今回は、「博物館をもっと楽しむための情報」を紹介する。
(森川 美和)

造詣が深く、当館実施の研修を受けて合格した方が当館の認定を受けて従事)は現在200名程度で、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語、ハンガリー語、日本語の8ヶ国語のいずれかで説明を行う(すべて無料)ガイドボランティアの中には、目の不自由な人にも楽しんで

てもらえるように小道具を用意しておられる方もあり、来館者を楽しませてくれる。目の不自由な方達のガイドをしたことがある鈴木静さんは「この博物館は皆さんが参加できるように工夫しています。博物館の保存物の多くは、性格上ガラスケースに入っていたり、触れないように柵で囲っていた

りします。でも当館では、できる限り触れるものは触っていたり、乗れるものは乗っていただく、十分に体験していただくようにしています。また触れないものは、歩幅で長さを体感してもらったり、二脚や音で感じたりしてもらえたり、小道具などを用意しています」と話した。

また当館の江戸東京博物館管理課管理係の旗野麻子さんは「当館の展示の中には、昔のラジカやトランジスタを作る音を聞くことが出来る「コーナー」や、縮小模型を自由に手で触れることにより、目の不自由な方でも常設展示室内の大型模型の形を理解することが出来るように工夫された「コーナー」が用意されてい

ます。今後もよりよい展示に向け検討を続けて参ります。」と話した。
障害の有無にかかわらず、より多くの人が楽しめる江戸東京博物館のガイドボランティアを一度体験してみたい方がたくさん。つか。

東京都墨田区横綱にある江戸東京博物館は、江戸東京の歴史遺産を守るとともに、東京の歴史と文化を振り返ることによって、未来の東京を考えるために設立された博物館である。館内に一歩足を踏み入れると、江戸時代の日本橋(橋の高さと橋幅は原寸大、長さは半分)が現れ、橋を渡るとゆっくりと江戸時代にタイムスリップしていく。
当館は、地下1階から7階まであるが、移動しやすいエレベーター、エスカレーターが完備されており、車いすの貸し出しもある。また当館には、博物館を案内してくれる「ガイドボランティア」があり、来館者の個性や特徴や来館時間を考慮して見所を吟味し、来館者に江戸・東京の歴史の楽しさを教えてくれる。ガイドボランティア(歴史)



●江戸東京博物館 〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1
ホームページ: <http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/>

- ガイドボランティア連絡先
東京都江戸東京博物館 ボランティア事務局 電話: 03-3626-9974 (代表)
*日によっては対応できない言語もあるので、事前にお問い合わせをした方がより確実です。*受付時間: 9時~17時
- 常設展観覧料について
以下の方々は無料になりますが、証明書(手帳)等は、必ずお持ちください。また、該当は常設展のみですので、特別展示場は別途料金がかかります。
①未就学児童 及び小学生 ②都内在住・在学の中学生 ③身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方及びその付き添いの方(2名まで)

「ガイドボランティア」で、 もっと楽しく江戸東京の生活を知る

芸術の秋がやってきた。日頃から博物館に足繁く通っている方は、博物館のバリアフリー化が少しずつ進んできていることに気づいておられるのではないだろうか。昨今より多くの方に楽しんで施設を利用してもらえるようにと、それぞれの博物館や美術館等が、できることから取り組みを始めている。

「国立科学博物館の大文字版『新刊ガイド』無料配布！」

地球と生命の共進化、そして人類の知恵の歴史が展示されている国立科学博物館(東京都・台東区)の新館(以下「科博」といふ)地球の環境をどのように守っていくか、自然と人類が共存するために必要なことを考える空間が用意されている。また科博では、来館者に無料で「新刊ガイド」(A5判・8ページ)を配布していて、大変好評であるが、一部の来館者からは「もう少し字が大きければ助かるのだ」という意見も届いていた。

そこで科博では、新たに大文字版の「新刊ガイド」(B5判・24ページ)を制作。館内地図や各フロア案内図、開館時間・入館料、付帯施設などの情報を盛り込んで分かりやすく説明している。大文字版の「新刊ガイド」の作成を行ったのは、視覚障害者向けの大活字書籍の刊行を手がけている(株)大活字(東京・千代田区)である。大活字書籍のノウハウを生かして、文字はすべてゴシック体とし、「コントラストがはっきりした配色を用いている。科博では、総合案内と新館1

階入り口に、大文字版あります」の表示を出し、希望者に配布している。
来年度(平成19年度)には、現在建設中の本館をオープンする予定で、本館についても同様のガイドを制作する方向で進んでいる。「新刊ガイド」の作成に携わった大活字の西口陽子さんは「弱視の方に限らず、小さな文字が見えにくく苦労されている方もたくさんいます。これから読みやすい、見やすい印刷物が世の中にたくさん増えていくといいなと思います。」と話した。



【国立科学博物館の大文字版『新刊ガイド』】の問い合わせ先
国立科学博物館ホームページ <http://www.kagaku.go.jp/>

【大活字に関するお問い合わせ】
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-3 富山房ビル6階
(株)大活字 <http://daikatsuji.co.jp>

(PR) 財団法人共用品推進機構 ☎03-5280-0020 / FAX03-5280-2373
URL: <http://kyoyohin.org/> E-mail: jimukyoku@kyoyohin.org